

みづろの花&生きもの 散策コースマップ 2025

6月中旬～7月中旬

--- 季節のおすすめ散策コース ---
(ゆっくり歩いて1時間)
--- おてがるコース ---
(ゆっくり歩いて30分)



いきもの



モリアオガエル (アオガエル科)

梅雨の時期に、木の上に泡状の卵を産みます。卵のついている木をよく見ると親ガエルがいるかもしれません。かなり大型のアオガエルです。



ミヤマカラスアゲハ (アゲハチョウ科)

光を反射して青く光って見える、里山を代表する美しいアゲハチョウです。



ホトギス(ホトギス科)

鳴き声がユニークで、昔から「東京特許許可局」とか「デッヘンカケタカ」などと表現されます。田植えの頃に鳴きはじめます。



リョウブ(リョウブ科)

昔、食料の少ない時に、若葉を摘んでリョウブ飯にしたとか。



里山美林散策路 ～緑陰の散策～
早苗の棚田景観を、木陰より見下ろしながら散策ができます。

ヤブレガサモドキ(キク科)

葉っぱが破れた傘のように見えることからこの名前がつけました。小さな花がたくさん集まって咲きます。



ムラサキシキブ (シソ科)

果実が美しい紫色に熟することからこの名前がありますが、花は淡い桃色です。



木見川散策路 ～緑陰の散策～

樹木の葉が夏の日差しをかわし、心地の良い涼しげな散策ができます。



ホタルブクロ(キキョウ科)

ホタルが飛ぶころに咲きます。昔は子どもの遊びで、ホタルをこの花の中に入れて灯を楽しんだそう。



ウツボグサ(シソ科)

ウツボとは、弓矢を入れておく道具のこと。真夏に花穂が枯れることから、夏枯草とも呼ばれています。



クマノミズキ(ミズキ科)

花の後は、紅葉や花柄の紅い色彩も楽しめる木です。



ヤマモモ(実)(ヤマモモ科)

果実は食用に、葉はお茶に、樹皮は染料に、余すところなく使える あいなめのシンボル樹です。

※ヤマモモの実はイベントにお申込みのお客様に摘んでいただきます。絶対に採らないでください。



ノカンゾウ (ススキノキ科)

ヤブカンゾウと同じく、若葉やつぼみは食用になります。



オカトラノオ(サクラソウ科)

小さな白い花が集まってできた花穂が、トラの尾っぽを思わせる、かわいらしい花。

